

内閣総理大臣 岸田文雄殿

核兵器禁止条約第1回締約国会議参加の決断を求めます

私たちは、4月22日、貴職に対して核兵器禁止条約の署名・批准を求め、96万538人分の署名を提出し、核兵器禁止条約第1回締約国会議への参加も強く求めました。

しかし貴職は、国会審議などで「核兵器禁止条約は出口として重要だが、核兵器国が一国も参加していない。米国とともに、核兵器のない世界をめざす」と繰り返し、目前にせまった核兵器禁止条約第1回締約国会議へのオブザーバー参加の有無についていまに至っても明らかにしていません。

世論調査で核兵器禁止条約に参加すべきは72%、オブザーバー参加すべきは85%に達しています。被爆地出身の首相として、この声に誠実に応え、核兵器全面禁止・廃絶にコースを切りかえるべきです。

報道によれば、締約国会議の後の6月末にスペインで開かれる核軍事同盟であるNATO（北大西洋条約機構）首脳会議への出席を検討しているというではありませんか。貴職は、米国の核兵器を含む拡大抑止は「大変重要」と言い、先の日米首脳会談では、その強化を確認しました。

核抑止政策を取る限り、いざとなれば核兵器を使うことが前提となります。それはいまのプーチン大統領がしていることと同じです。

「核抑止」と「核兵器廃絶」の立場は両立しません。日本は世界で唯一、国民が核の攻撃を体験し、その悲惨さを知る国です。核兵器の廃絶は、すでに国連でもNPT（核不拡散条約）でも合意されている目標であり、日本はその実現のために直ちに誠実に行動すべきです。核兵器禁止条約第1回締約国会議への参加を強く求めます。

2022年6月9日 原水爆禁止日本協議会